

第76号

発行
平成24年1月

センターだより



別府公園イルミネーション

目次

- ・ 新年を迎えて 2
- ・ 医療機器の紹介 3
- ・ 第31回大分国際車いすマラソン大会 4
- ・ 第31回大分国際車いすマラソン大会に参加して 5
- ・ 文化祭、ホテルの答礼、第4回 LespoCupボッチャ大会 6
- ・ 「頸髄損傷者に対するリハビリテーションセンター研修会」報告 7
- ・ 終了生の状況、利用者募集のご案内 8

指定障害者支援施設

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局

別府重度障害者センター



新年を迎えて

所長 小石 公二郎

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、つつがなく新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

さて、障害者に関わる制度につきましては、平成21年12月に内閣総理大臣を本部長とする「障がい者制度改革推進本部」が設置され、障害者権利条約の締結に必要な国内法の整備を始めとする我が国の障害者に係る制度の改革が行われております。昨年8月5日には、障害者施策や関係法の基本方針となる改正障害者基本法が公布され、同月30日には、現行の障害者自立支援法に替わる「障害者総合福祉法」（仮称）の骨格に関する提言が発表され、平成24年の通常国会への法案提出に向けて準備が進められています。したがって、今後は、制度の谷間のない支援や個々のニーズに基づいた地域支援体制などの整備が一層進むものと思われます。このように、障害者施策につきましては、めまぐるしく制度改正等が繰り返されておりますが、当センターの運営にも直接関わることで、これらの動向を踏まえて適切なサービスの提供を推進していく必要があると思っております。

当センターでは昨年も、利用者の方に各部門の訓練成果を客観的に把握して頂くことなどを目的に、スポーツでは、第6回大分県障がい者スポーツ大会（アーチェリー）、大分かぼすカップ（ツインバスケットボール）、第31回大分国際車いすマラソン大会、第4回LESPOカップ（ボッチャ）などに、職能では、大分県障害者技能競技大会、ときめき作品展、利用者や終了者の自立支援のための湯輪夢（トリム）フェアなどに参加しました。さらに地域交流として、盆踊り大会や蛸の交歓会などにも参加して頂きました。これらをとおして、利用者の一人一人が存分に力を発揮し、苦しくも楽しそうな笑顔で頑張っている姿に、多くの感動を頂きました。

また、国内では、タイガーマスクの伊達直人現象やなでしこジャパンのW杯優勝など明るい話題もありましたが、鳥インフルエンザの発生や新燃岳の噴火に始まり、東日本の大地震や津波、福島原発事故、台風12号15号による記録的な被害など大変なことが多く、中でも東日本大震災は、今なお癒されない悲しみをもたらしています。

毎年12月に清水寺で発表されます「今年の漢字」では、昨年は、東日本大震災に関わる「絆」が第1位で、続いて「災」、「震」でした。確かに昨年は、「絆」という言葉をよく耳にしましたし他の漢字より暖かさがあり良かったと思うとともに、利用者の方々への支援をとおして、家族の絆、地域との絆、仲間との絆はとても大切だと改めて感じているところです。

今年は、災害の復興や経済情勢、福祉施策などが良い方向に大きく前進し、12月には希望のある暖かい漢字が選ばれることを願うとともに、当センターも各訓練や看護・介護などの業務を工夫をして、一歩前進したサービスの提供が実施できるようにしたいと思っておりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

医療機器の紹介

看護部門

当センターでは、頸髄損傷者の方が多数入所しています。頸髄損傷者の方は、皮膚の知覚や運動機能が失われているために、当人が皮膚の傷や褥瘡に気づかないことがあります。褥瘡ができると訓練や日常生活に大きな影響を及ぼすこととなりますので、褥瘡をつくらない、できても早く発見し治すことが重要です。センターでは、利用者に対して褥瘡に関する理解と自己管理について教授し、恒常的な観察と予防の必要性を指導しています。また、長時間同じ姿勢をとる夜間には、数種類の褥瘡予防のマットレスの中から利用者の現在の状態にあったものや終了後の生活を考慮したものを選択しています。今回は、センターで使用しているマットレスについてご紹介いたします。

1 ロンボケア・ベーシック(ラックヘルスケアー)

ウレタンフォーム素材を生かし優れた通気性と快適な寝心地を実現したマットレス、カバーに伸縮性がありしわになりにくい。

2 エアマスターライセル(ケーブ)

エクセル素材を2層に配列し頭側挙上を備えたマットレス、頭側挙上しても安定体位を確保でき底つきしない。ベッド背上げ時のズレ・摩擦を防ぐ。

3 アドバン(モルテン)

高機能タイプ圧切り替え型、3層パンプ構造のセルを使用することで身体を低圧で保持することができ全身と局所の圧迫を抑えられる。座位の安定を求める場合の静止型もできる。体重設定・底つき防止機能のための圧力調整が不要で安全性が向上、静止モードによりベッドでの動作がやすい。

4 クレイド(モルテン)

高機能タイプ特殊マットレス高機能多目的
独立3層パンプ構造と動作制御方式により超低圧で安定感のある身体保持を実現、また自動体位変換機能、膝下支持機能を有している。体重設定、底つき防止機能のための圧力調整が不要で安全性が向上、静止モードによりベッド上での動作がしやすい。

膝下支持機能により安定したポジショニングと臀部・踵への圧迫を軽減させることが可能。



当センターでは移乗動作や褥瘡予防のためOTと連携し個々の利用者にあったマットレスの選択をしています。現在高機能タイプのアドバン・クレイドの利用が多くなっています。

第31回大分国際車いすマラソン大会

運動療法士長 木畑 聡

毎年、この時期になると気になるのが天気予報です。10月に入ってどうも平日は行楽日和の晴天、週末は崩れる傾向でした。どこかでサイクルが変わってくれないだろうか…、そんな願いも届くことなく、第31回大分国際車いすマラソン大会は大会史上稀にみる冷たい雨模様の大会となってしまいました。

そのような中、センターからは冷たい雨も吹き飛ばすような熱い男女3選手が出場し、それぞれが、応援している私たちに強く印象を残す走りをしてくれました。

今大会はセンター選手へのマスコミの事前取材が多く、テレビや新聞で県民に広く紹介されました。おかげで、沿道の声援も3選手には多く届いたようです。胸髄損傷のクラスには川谷さんと河室さんが出場しました。初出場でフルマラソンに出場する方は稀なようで私も心配でしたが、2人とも怪我をされる前もマラソンランナー、そんな心配をよそに自分たちでメニューを決めながら自己管理をし、大会にのぞみました。その結果、川谷さんは見事42.195kmを2時間37分16秒で完走し、河室さんは、事前の目標設定のとおり、1時間54分05秒で総合46位、大分県選手で2位になるなど、初マラソンとは思えない成績を修めました。頸髄損傷の女性のクラスで出場した豆塚さん。このクラスは、今回出走者が豆塚さんを含めて2名と国際的に見ても競技者が少ないクラスです。豆塚さんの完走が期待されましたが、厳しい気象条件下、鬼門の5km関門の通過ができませんでした。レース後は体温低下もひどく体調が心配されたほどでした。

翌日は、素晴らしい快晴の天気で、大会の天気は悔やまれましたが、選手の皆さんのゴールに向けた熱い思いと、それを雨にぬれながら応援する沿道の方たちの不思議な一体感を感じることでできた大会だったと感じます。

OBの方々も10名以上参加されていました。大会で元気な姿をお見かけすることは私たち職員も本当にうれしい限りです。今回センターから参加された3名は今後も車いすマラソンは続けるようです。次の大会でお会いできることが楽しみです。



(クーベルさん)

(川谷さん)

(河室さん)



(豆塚さん)

第31回大分国際車いすマラソン大会に参加して

(利用者 川谷 功さん)

車いすマラソンはそれまで見たこともなく、最初は先生にやり方だけ習って気が向いたら自宅で始めようと思っていました。でも、プロの車いすアスリート廣道純さんと出会い「あなたは、杖を使えば歩けるけれども走ることは難しい、車いすでなら走ることができる、いっしょにやりましょう。」と言われたことや、同室のやはり車いすマラソンを目指す人の影響もあり、いつの間にかのめり込んでしまいました。結局、廣道さんもびっくりのフルマラソンへの出場を決め、6月から毎日毎日練習しました。

大会当日は、最悪の雨、ハンドリムを漕ぐ手が滑り、センターにも来てくれたドイツのクーベルさんから分けてもらった「松ヤニ」がなければ、完走は難しいものがありました。制限時間ぎりぎりなんとか完走できました。今は、自宅改修中で、室内訓練室も作る計画です。レーサーも手に入りその他もろもろ準備しています。できれば、また来年の大分国際車いすマラソンに参加したいです。

(利用者 河室 隆一さん)

私は受傷をする前からマラソンが好きで、日頃からトレーニングをし、レースにも出ていました。そんな私が車いす生活になって、車いすマラソンに出ると決めるまでは長くはありませんでした。

センターに入所して、すぐマラソンの練習を開始しました。最初はやはり甘くなかった。スピードはでない、長くこげない、腕はパンパンになって動かないという感じでした。しかし、マラソンの魅力は練習した分、速くなると思っているので諦めずに練習しました。その結果、大会1ヶ月前からかなり調子が上がってきて、早くレースに出たいという気持ちが強くなりました。

レース当日はあいにくの雨でした。ハンドリムが滑ったり、寒かったりでスタート前は不安でしたが、いざスタートすると身体はスムーズに動きました。雨にもかかわらず、たくさんの応援と他の選手達と一緒に走れ、感動と楽しさでいっぱいでした。記録も目標の2時間を切り、思い出深い初レースとなりました。

来年はもっとトレーニングを積み、少しでもいい記録ができるようにがんばりたいと思います。

(利用者 豆塚 エリさん)

運動すること、特に走ることが大嫌いだった私。不思議なもので怪我をして車いすになってから体を動かす楽しみを知りました。人生初のマラソン大会。学校の先生方、友達、入院していた病院のスタッフの方、近所に住んでいた方達・・・たくさんの人が応援に来てくれました。めげずにここまでこれたのも、まわりの支えがあってこそです。

世界中の車いすに乗ったアスリート達と同じスタートラインに立った時は思わず身震いしました。どしゃ降りの雨の中、しかし、みんなそれぞれに自信に満ちた表情をしていて、この場所では誰もが主人公になれるのだなぁ、としみじみ思いました。

残念ながら5キロの関門の時間制限に間に合わず、完走することは出来ませんでした。ひと夏の努力は私にたくさんのものを与えてくれました。まだまだ若いのでこれからもマイペースで頑張ろうと思います。応援して下さった皆さん、ありがとうございました。よかったらこれからも応援、よろしくお願いします。

文化祭

今年度も秋の恒例行事となっている文化祭が開催されました。以前に比べて利用者の訓練期間が短くなっていることもあり、ほとんどの利用者にとって参加経験がない中、今年は二十歳前後の若手が快く協力してくれました。夏頃から利用者・職員による実行委員会を立ち上げて企画・運営準備を進め、外部団体等への参画依頼も利用者が積極的に行い、日頃の訓練では見られない頼もしい一面も見る事ができました。



そして10月1日(土)、天候にも恵まれ、秋晴れのもと小川実行委員長の開会宣言により第20回文化祭が開催されました。今年のテーマは「彩～それぞれの個性を活かそう～」で、ポスターは、利用者の萩原慎哉さんの作品でした。

各訓練の紹介や体験コーナーでは、利用者が講師役となり、来場者の方々への指導を行い、また、特別企画では利用者が司会を務め、奈美志郎会による日本舞踊や別府青山高等学校の吹奏楽演奏の紹介を行い、日常の訓練生活とは異なる楽しいひとときを過ごすことができました。また、模擬店会場では、センター職員が作った自慢のメニューの提供や終了生のトールペイント・手織り作品の展示販売なども行われ、利用者にとっては楽しさとともに今後の訓練の励みとなっている様子が窺えました。

最後に、各企画の関係者及び別府溝部短期大学のボランティアの皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りして、お礼とさせていただきます。

ホタルの答礼

昨年の6月9日(木)、当センターに竹田市立南部小学校から「友情のホタル」が届きました。46回目を迎えた蛍の交歓会です。そして、去る11月8日(火)には、「ホタルの答礼」として、今度は当センター利用者3名と職員6名が南部小学校を訪問し、生徒の皆さんとの交流を行いました。

当日は生徒や関係者の皆さんのお迎えのあと、歓迎会やポッチャゲームを通して親睦を図りました。昼食は、5～6年生の教室で児童、職員、関係者の皆さんと一緒に学校給食をいただきながら、小学校時代の話やホタルの話などをして、懐かしくも楽しい一時を過ごすことができました。



ホタルが取り持つこの交歓会には長い歴史があり、生徒の父母の皆さんの中には、かつてこの交流に生徒として参加されていた方もおられて感慨深いものがありました。自然豊かな竹田市も一時は農薬のためホタルが激減しましたが、最近は環境保護の意識も高まり、徐々にホタルが増えてきているとのこと。今後もたくさんのホタルが、福祉施設と教育現場の橋渡しをしてくれることを祈ってやみません。

第4回 LespoCup ボッチャ大会

鶴見岳がうっすらと雪化粧をし、初冬の寒さを迎えた12月11日(日)、第4回 LespoCupボッチャ大会(太陽の家サンスポーツセンター)に参加しました。ボッチャクラブ員6名は、毎週金曜日のクラブ練習に加え、訓練時間外も自主的に練習に励んできたこともあり、全員初出場ながら上位進出を狙っていました。

いよいよ試合開始。当センターは2チームに分かれて参加しましたが、両チームとも初戦から動きが固く、いつものボールコントロールができません…。今大会での最大の敵は、何よりも“寒さ”でした。暖房設備のない体育館の冷え込みは厳しく、初出場のプレッシャー以上に“寒さ”に苦しみました。それでも徐々に持ち前のボールコントロールを取り戻し、試合を重ねる毎に調子を上げ、最後はタイブレークを競り勝つなど、本来の力強さを発揮することができました。

結果は20チーム中5位と9位で、昨年に引き続き敢闘賞を受賞することができました。初めての大舞台で、日頃研鑽した技術や戦術を出しきることの難しさ等を感じつつ、次回は決勝トーナメント1回戦の壁を越えられるよう、新たな目標を胸に今日も練習に励むボッチャクラブ員の皆さんでした。



「頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会」報告

医療機関並びに福祉施設の関係者を対象に、平成23年11月12日(土)、11月13日(日)の2日間、「頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会」を開催しました。

初日は、国立障害者リハビリテーションセンターの中村自立支援局長による「圧迫性/外傷性頸髄障害 -原因と治療の現状-」についての基調講演と、当センター、伊東重度障害者センター及び国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局で実施してきた、頸髄損傷者の方々に対するリハビリ訓練、社会復帰への支援内容についての報告を聞いていただき、2日目は、リハビリ訓練や支援の内容の一部を実際にご覧頂いた。

なお、参加者の状況は、次のとおりです。

● 1日目職種別の参加者状況

職種別	理学療法士	作業療法士	看護師	MSW・CW	介護員
人数	46	42	12	6	2
職種別	ケアマネジャー	医師	リハ体育士	報道関係者	合計
人数	1	1	1	1	112

● 2日目職種別の参加者状況

職種別	実技Ⅰ	実技Ⅱ	計
理学療法士	21	3	24
作業療法士	29	4	33
看護師		4	4
MSW・CW		5	5
介護員		1	1
ケアマネジャー		1	1
計	50	18	68

※実技Ⅰ
PT、OT、スポーツ実技

※実技Ⅱ
生活支援、職能実技



ご当地探訪 in 別府 「仏の里くにさき」

今回は、大分県北東部の国東半島のご紹介です。

国東地方は、仏教遺跡の多さから仏の里とも呼ばれ、かつて邪馬台国はこの地にあったとする説さえあります。また、その豊かな自然から、県内では竹田市「坊がつる」湿原とともに日本の秘境100選にも選ばれています。

私自身、国東地方の不思議な魅力に惹かれ、山中の道なき道を3回に分けて巡りました。多くの名刹の中でも、一押しはやはり「熊野磨崖(まがい)仏」でしょうか。鬼が一夜にして築いたとも言われる天然石の乱積み石段(写真①)を延々と登り詰めると、突如として巨大な石仏(写真②)が現れます。こうした石仏文化は、天念寺など国東地方では数多く見られます。続いては「文殊仙寺」。「三人寄れば文殊の知恵」ということわざの発祥となった日本三文殊のひとつで、昨年は偶然にも12年に一度の御開帳の年でした。12年に一度しか拝顔できない秘仏を前に、私も少しは知恵がつくよう護摩焚き祈願をしてもらいましたが、今のところ毛が薄くなった以外の変化はありません。境内の裏手には樹齢千年の大ケヤキ(写真③)があり、こちらは21世紀に残したい日本の自然100選に選ばれています。そして最後は、九州最古の木造建築物で国宝に指定されている「富貴寺」大堂。宇治平等院鳳凰堂、平泉中尊寺金色堂と並ぶ日本三阿弥陀堂のひとつで、ご本尊の背後には、すでに色あせてはいるものの極彩色の美しい壁画が描かれています。

この他にも紹介しきれないほどのすばらしい名刹が散在しており、まさしく六郷満山と言われる仏教文化の繁栄と修験者達の厳しい修行の跡が今も色濃く残っています。邪馬台国は、もしかすると本当にこの地にあったのかもしれない…。(工藤)

終了生の状況

(平成23年7月1日～平成23年12月31日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・ 内職	現職復帰	就労支援 施設	他施設	病院	進学	その他	計
人数	15	3	3	3	0	7	2	0	0	33
比率(%)	45.4	9.1	9.1	9.1	0	21.2	6.1	0	0	100.0

利用者募集のご案内

当センターは、厚生労働省が設置・運営する指定障害者支援施設として、自立訓練（機能訓練）を中心とした様々な支援により、重度の肢体不自由のある方（主に頸髄損傷等による四肢麻痺者）の社会復帰を支援しています。

ご利用できるサービスは以下の通りです。

○自立訓練（機能訓練）

理学療法、作業療法、スポーツ訓練、職能訓練です。

利用期間については、利用開始後の評価等に基づき作成した個別支援計画書に定めた期間となります。障害者自立支援法上の標準利用期間は1年6か月間です。（頸髄損傷による四肢の麻痺その他これに類する状態にある方は最大3年間です。）

○施設入所支援

自立訓練（機能訓練）を利用される方で、自宅から通所が困難な方のために、看護・介護等の支援を受けながら宿舍の利用が可能です。

なお、当センターの概要や利用申込み手続き、見学などのお問い合わせについては、下記までご相談ください。

お問い合わせ先

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局

別府重度障害者センター 支援課

住所 〒874-0904 大分県別府市南莊園町2組 <http://nrcd.jp/beppu/>

電話 0977-21-0182（相談・受付窓口直通）

FAX 0977-21-2794

E-mail soudan@beppu-nrh.go.jp